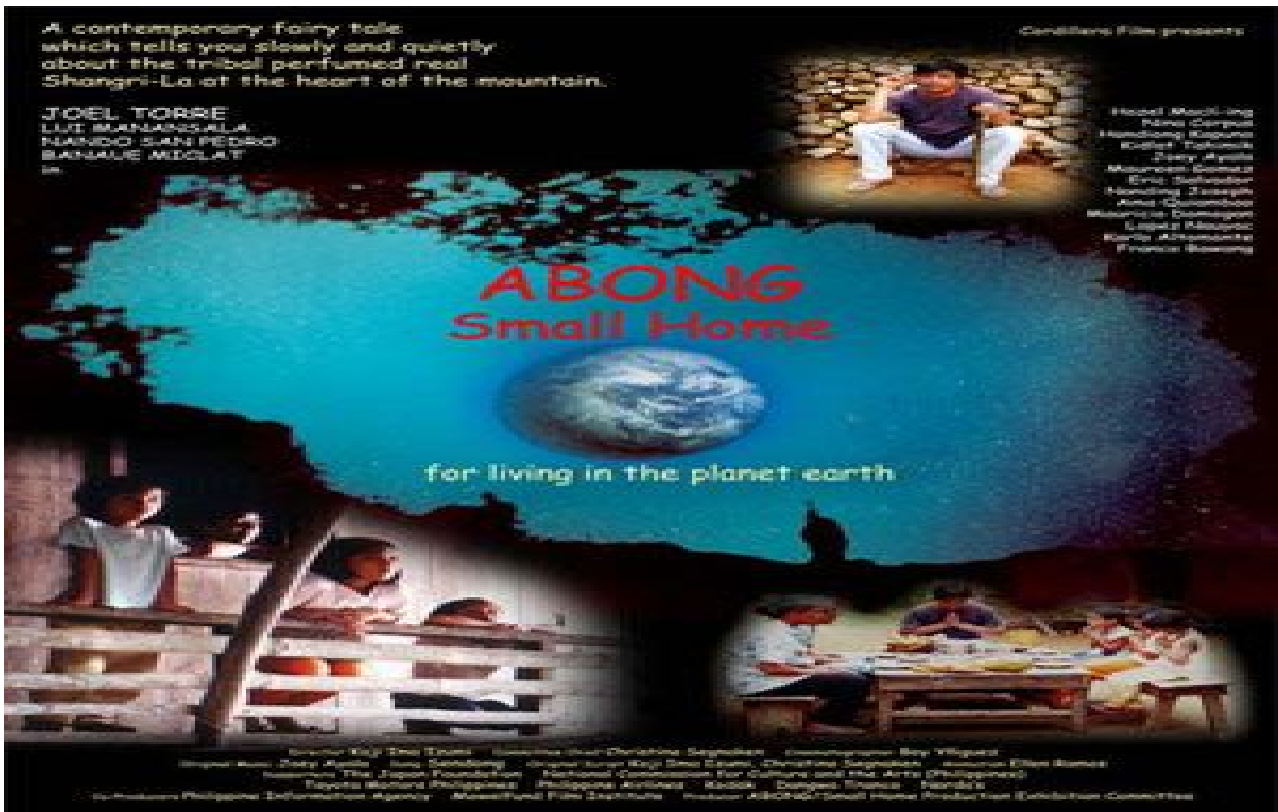


S I A

国際協力基金キャンペーン 映画上映会

「アボン・小さい家」

～フィリピン・ルソン島北部の山岳都市バギオを舞台にした日系家族の物語～
フィリピン・日本のNPO協同製作映画



◆ 日 時 6月11日(日) 13:00~16:00

(12:30 開場、上映時間 約130分)

◆ 場 所 埼玉県庁 第三庁舎講堂

(JR浦和駅西口より県庁通りを約800m、徒歩10分)

◆ 入場料 (一般) 500円 (SIA賛助会員) 無料

★当日受付で 賛助会員入会可能です。

◆ 定 員 280人(申込順/定員に達し次第締め切ります。)

◆ 主 催 (財)埼玉県国際交流協会(SIA)、NPO法人サルボン

◆ 申込み 電話、FAX、E-mailにて、SIAまでお申込みください。

★当日は、監督による作品解説もあります。

★入場料は、SIA国際協力基金への
寄付とさせていただきます。

☆基金については、<http://www.sia1.jp/> をご覧ください。

(申込み先) SIA 事業課

TEL:048-833-2992

FAX:048-833-3291

E-mail:sia@sia1.jp

～作品の紹介～

フィリピン・ルソン島北部のコルディリエラ地方。その険しい山岳地帯で暮らす人々は、厳しくも豊かな自然と共生して生きていく知恵を今も生活の隅々に生かしています。

「アボン/小さい家」は、そんな人々が住む村と、山岳都市バギオを舞台にしたある日系家族の物語です。あまり知られていないフィリピンの日系人、出稼ぎ外国人の事情、先住民山岳民族の暮らし、自然、宗教、文明…さまざまなキーワードが、「地球と人間の真の在り方を発見する」という主題を浮上させていく、コメディタッチの詩情豊かな映画です。

* 作品紹介はホームページをご覧ください。

<http://www.ne.jp/asahi/small/home/index.html>

～スタッフ紹介～

日本からやってきたスタッフ、コルディリエラの先住山岳民族の人々、マニラからやってきた技術スタッフ、そしてバギオと日本のボランティアを加えて総勢50名以上の多様な人々の構成で映画作りが進められました。

★今泉 光司(脚本・製作・監督) 1959年東京出身。日本大学芸術学部映画学科卒業。

PR 広告、映画、ビデオの脚本・演出家を経て映画監督小栗康平の助監督を務める。92年に初めてフィリピンのバギオを訪れ、それ以来、キドラット・タヒミック等のフィリピンの映画人との交流を続けてきた。96年より生活の拠点をバギオに移し本格的に「アボン/小さい家」企画に取り組んだ。

★Cristy Segnaken (脚本・プロダクションチーフ) ベンゲット州のバクン生まれ。

シナリオ作成の段階からこの映画の企画に参加し、先住山岳民族の立場から製作に協力してきた。「アボン/小さい家」製作・上映委員会の委員長も兼ね、ロケ地の手配をはじめ、地元の人々や映画製作をつなぐ橋渡し役として、大きな力を発揮した。

～感想より～

◆今回2回目を鑑賞しましたが、何回見ても飽きない映画だと思いました。(会社員)

◆現代社会の問題が凝縮している映画。学校等でも上映されるルートができるといいと思います。(社会科教材として)(教育関係)

◆人が作りだした物やお金がなくても楽しく生きていけるという主張。資本主義が1番いい社会の形とは限らない。なんだか切なくて、とても共感できるような映画でした。(20代 会社員)

◆普段、今の子供たちが感じたり体験したりできない貴重なことだと思います。お母さんたちに観てもらいたいと思いました。(30代 女性)

◆自然のものから借りて生活しているという気持ちが今の日本にはなくなっているので、反省しなければいけないと思った。見た後、質疑応答を聞いてなおさら感動が生まれてくるような、ほんわかした温かいものを感じました。(60代 主婦)